

検査方法 ～センサー当て方 及び 禁止事項編～

目 次

1. センサー把持方法
2. 検査姿勢
3. 当て方目安
4. 位置修正
5. ナビ表示と移動方向
6. ラインナップ
7. 禁止事項

1. 正しいセンサー把持方法

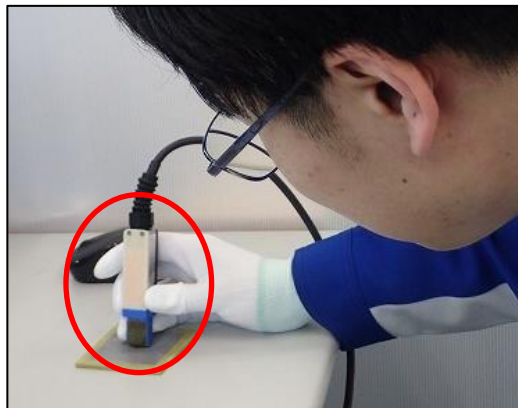
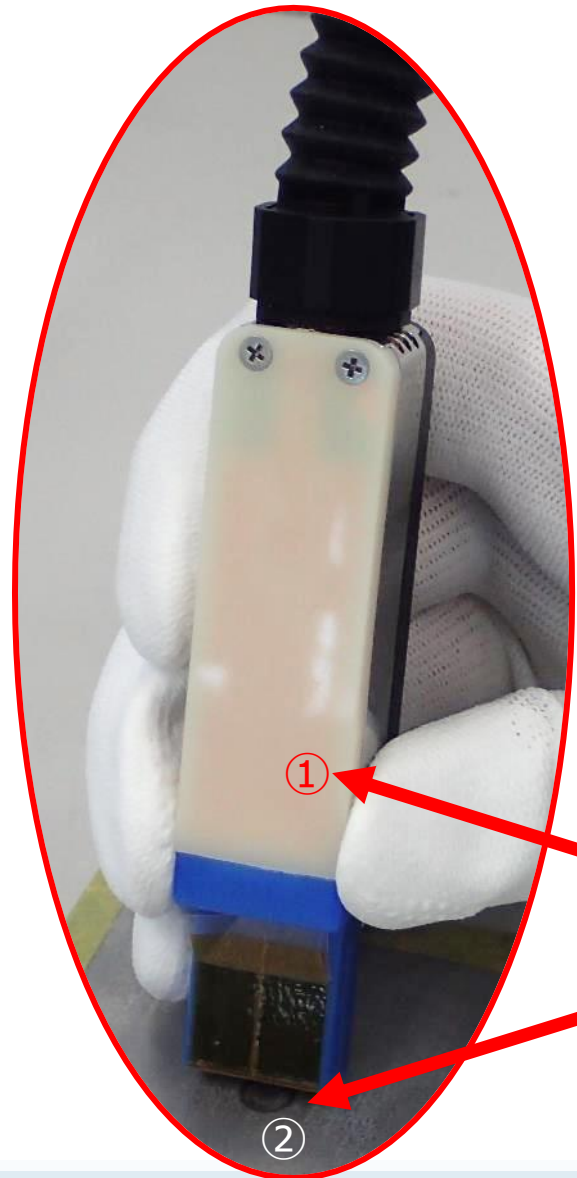


- センサーヘッド(青色ナイロン部)の側面とSUSケースの境目を、親指と人差し指・中指で把持します。
- ケーブルは自然に曲がる範囲で使用します。

1～3章までは検査画面を見ずに、溶接部(検査対象)を見て下さい。

センサーの当て方の説明は1～5章までです。

2. 正しい検査姿勢



センサーを空中に浮かせた状態で
下記2項が同一視角内に入るような姿勢を
とって下さい。

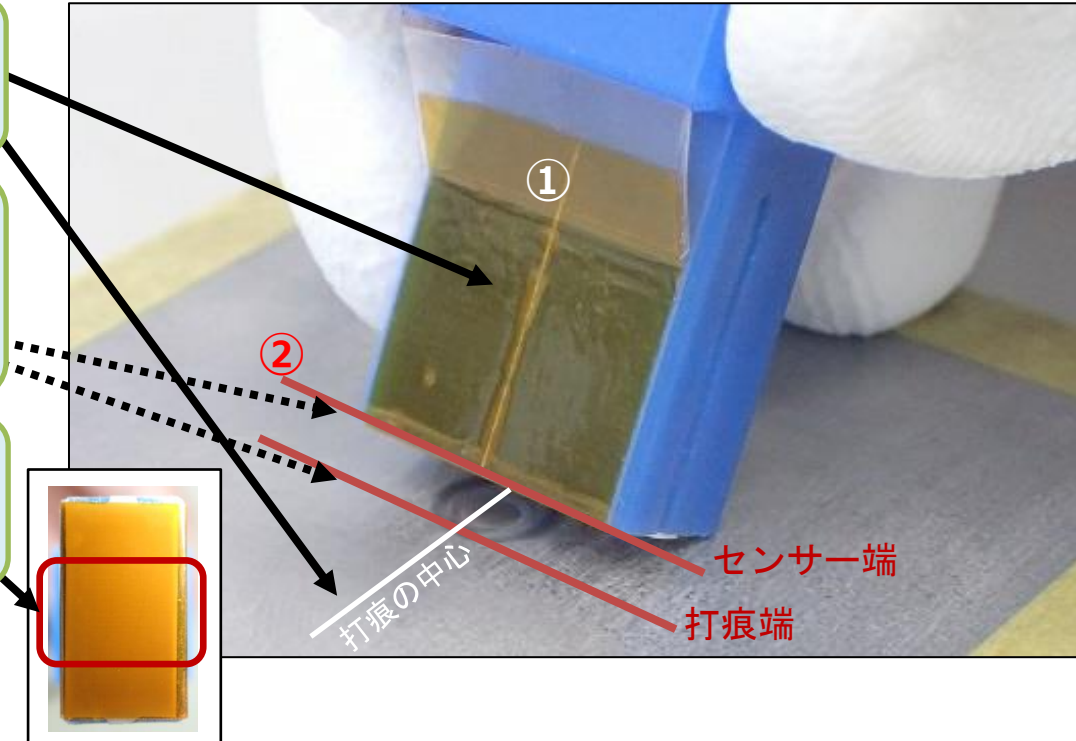
- ①センサー樹脂カバーの**白色**側
- ②検査対象の打痕端

3. 当て方の目安

【目安①】センサー中心線と打痕の中心を揃えるイメージです。

【目安②】センサー端と打痕端を合わせるイメージです。
※打痕径7～8mmの場合、その他は補足参照。

【目安③】センサー中心部と検査対象を面直にするイメージです。



〈補足〉

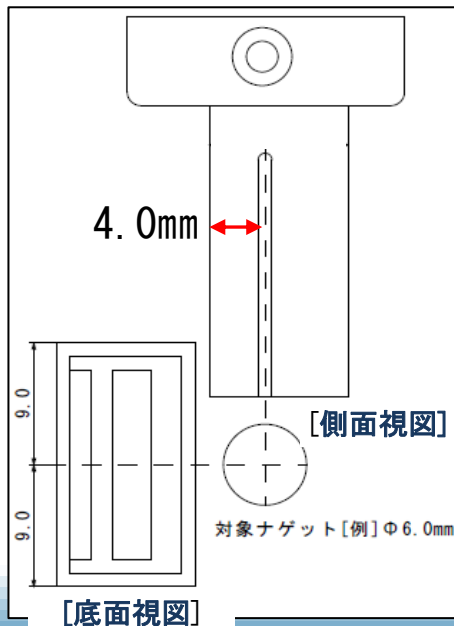
センサーヘッド側面の溝を打痕の中心に合わせるイメージです。

※センサー端から溝までの長さが4.0mm。

- ・ 打痕半径が4.0mm未満：目安②の後にセンサーを打痕の外部方向にずらす。
- ・ 打痕半径が4.0mm以上：目安②の後にセンサーを打痕の内部方向にずらす。

※ずらし量は最大でも2.0mm以内。

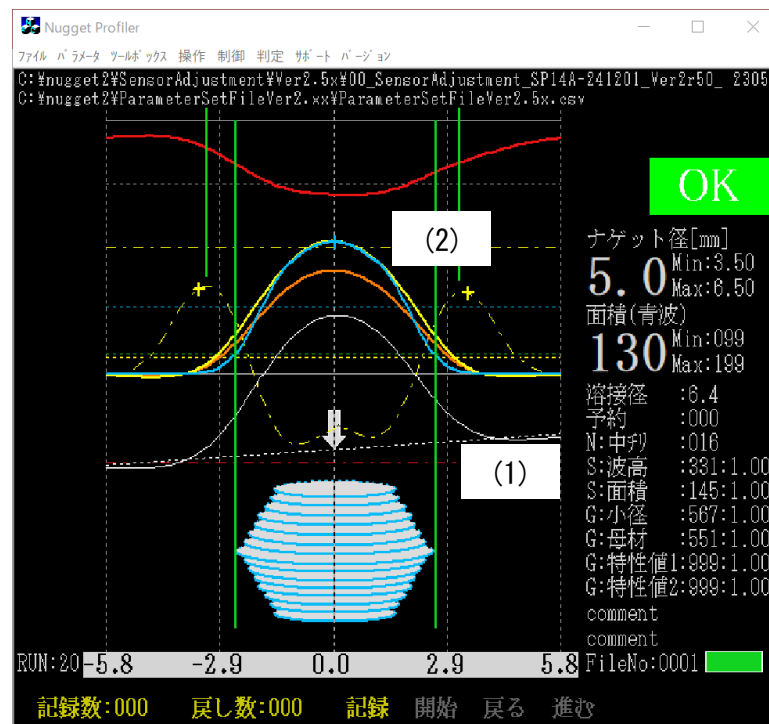
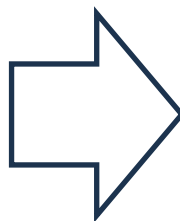
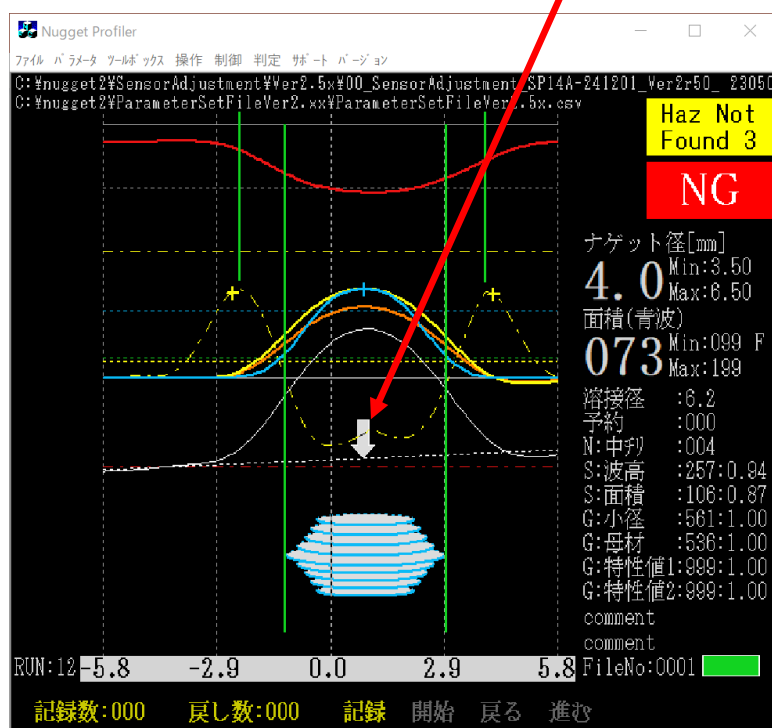
※ずらしの目安は白波形が最大になる位置(4章参照)。



4. 位置修正

白矢印(白凸)を画面中央に移動させてください。

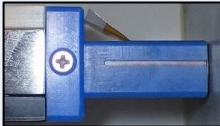
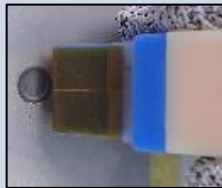
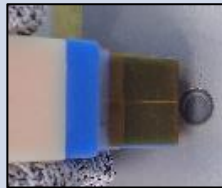
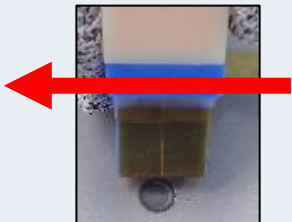
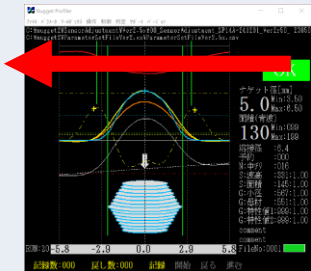
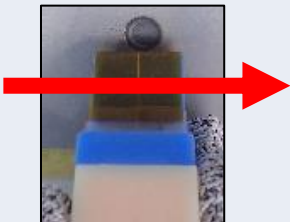
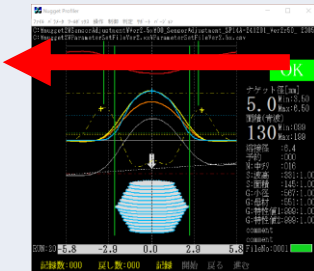
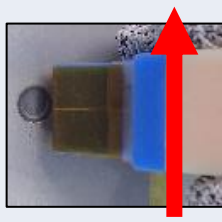
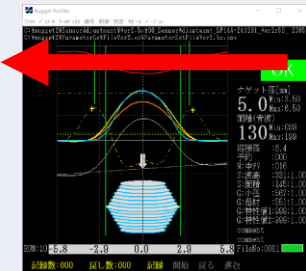
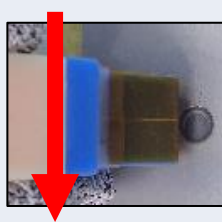
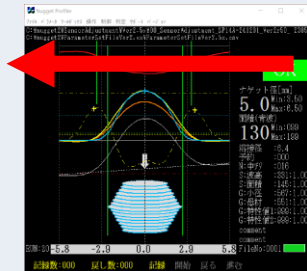
※移動量は最大でも $\pm 3\text{mm}$ 以内。



センサーを動かし続けると波形が表示されません。

- (1) センサーを2秒静止 : 白波形表示(白矢印を画面中央に移動)
 - (2) さらにセンサーを2秒静止 : 青波形表示
- ※以上でセンサー当て方(検査)は完了です。

5. ナビ表示と移動方向

向き	上	下	右	左
ナビ表示				
センサー				
当て方				
移動方向	 	 	 	 

6. ラインナップ

【片手ハンズフリータイプもラインナップ】

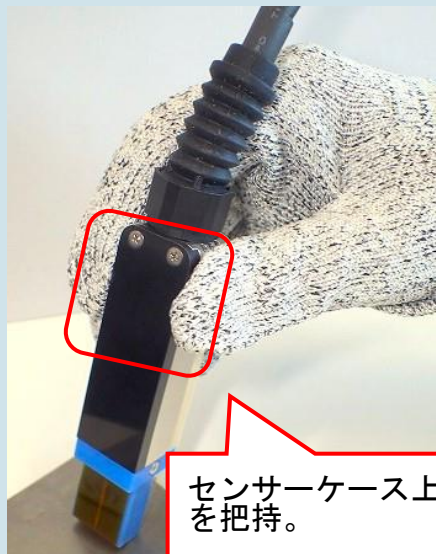


検査対象と画面が
同一視角に収まります。

7. 禁止事項

7.1. 誤った把持方法①～③

①センサー上部を把持



センサーケース上部
を把持。

センサーケース (SUS) の上部分を把持する方法です。
センサーの先端面と検査部との面直が困難で、正確な検査を行うことができません。
センサー先端のブレが大きくなります。

②樹脂カバーを把持



センサーの樹脂カバー
を把持。

センサーの樹脂カバー部分を把持する方法です。
センサーの位置出しが難しくなります。また内部電子回路に圧力が加わる恐れがあり、**故障の原因となります。**

③ヘッドの正背面を把持



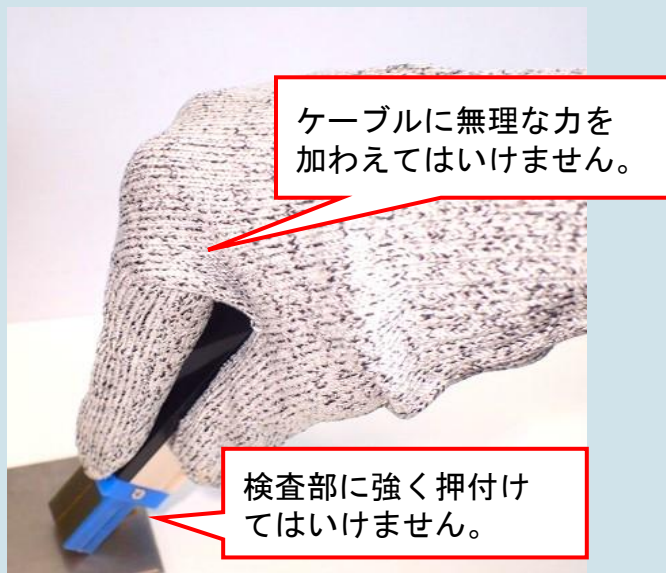
センサーヘッドの
正面と背面を把持。

センサーヘッドの正面と背面を把持する方法です。
センサーの位置出しが難しくなります。また内部磁気回路に圧力が加わる恐れがあり、**故障の原因となります。**

7. 禁止事項

7.2. 禁止事項①～②

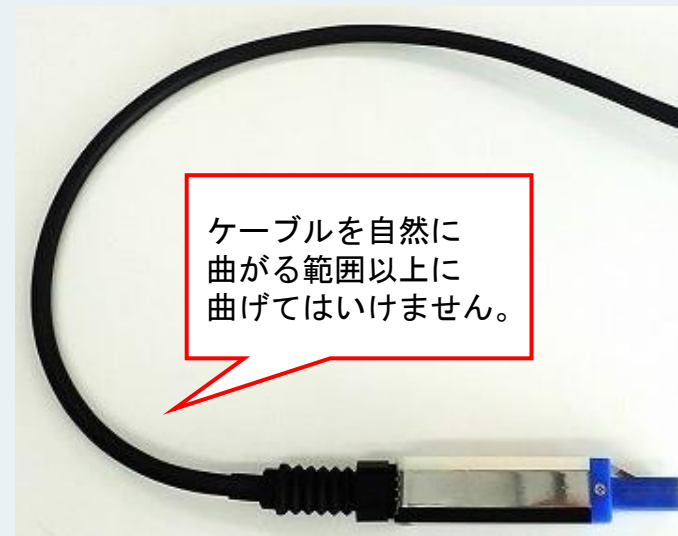
①過大な押付力の禁止



センサーを押さえつけないで下さい。
ケーブルに強い力が加わり**断線の原因となります。**
ヘッドに強い力が加わり**破損の原因となります。**

センサー押付力は**最大10[N]以内**。
通常は5[N]程度でご使用ください。
(センサー重量180[g])。

②過大なケーブル屈曲の禁止



ケーブルを自然に曲がる範囲を超えて曲げないで下さい。
ケーブルに強い力が加わり**断線の原因となります。**
特にケーブルの根元付近では注意して下さい。

7. 禁止事項

7.3. 禁止事項③～④

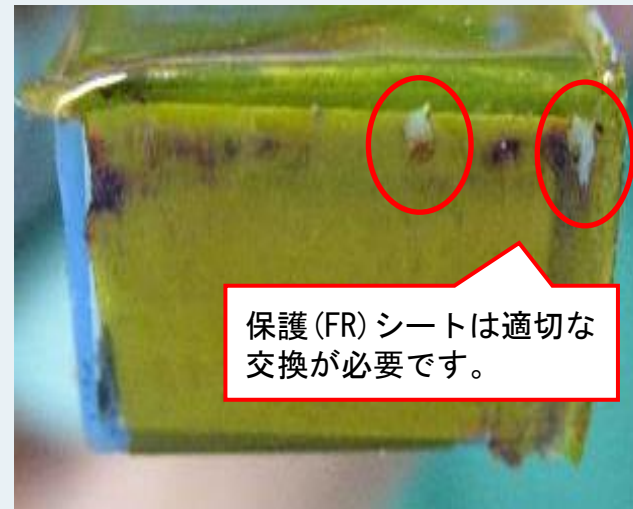
③ケーブルねじりの禁止



ケーブルを無理に
ねじってはいけません。

ケーブルを半回転以上ねじらないで下さい。
ケーブルにヨリができたなら直して下さい。
ケーブルに強い力が加わり**断線の原因となります。**

④保護シート未使用の禁止



保護 (FR) シートは適切な
交換が必要です。

保護 (FR) シートは交換が必要です。
ヘッドが保護されず**破損の原因となります。**
・ **保護 (FR) シートの損傷**が激しい場合は交換。
・ **2万回検査**したら交換。
・ **1週間に1度**の交換。

必ず正規の保護 (FR) シートをご使用下さい。
他のテープなどで代用する事は禁止**です。**